

ステークホルダーとのコミュニケーション

東京エレクトロングループは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通して成長していきます。

■ コミュニケーションに対する考え方

当社グループは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを積極的に推進しています。それは、環境・健康・安全への取り組みを進めるためには、事業活動にかかわるすべての皆様とできる限り情報を共有し、コミュニケーションによってフィードバックを得る相互作用が不可欠と考えているからです。具体的な取り組みとしては、地域の学校と協した受け入れ体験学習などを開催しています。

当社グループでは、2000年から環境報告書を発行しています。また、ホームページでも環境・健康・安全に関する情報開示に努めています。今後もこうした取り組みをより積極的に展開していきます。



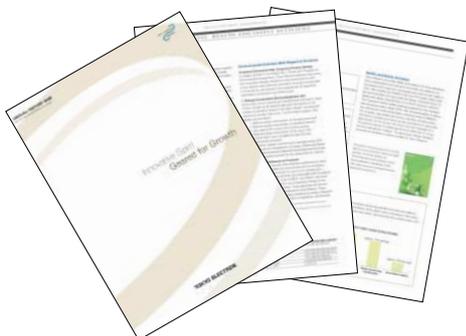
受け入れ体験学習の様相

■ EHSタイムズとイントラネットによる情報共有

環境・健康・安全に関する当社グループ社内報「EHSタイムズ」を隔月で発行し、グループ内の関連各委員会における審議内容や、グループ各社・事業所の取り組みなどを分かりやすく紹介しています。各グループ会社や事業所でも同様の社内報を作成しており、従業員の意識向上と情報の共有に役立っています。

イントラネットでは、グループ内の情報開示や情報交換をより迅速にする取り組みを行っています。

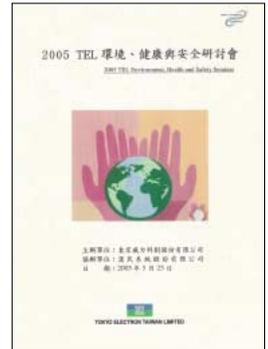
こうした活動は、株主・投資家の皆様に向けた冊子、アニュアルレポートでも紹介しています。



アニュアルレポートでのEHS活動の紹介

■ 台湾で環境・健康・安全セミナーを開催

当社グループは、台湾のお客様を招待して、台湾・新竹市で「TEL EHSセミナー」を2005年5月に開催しました。台湾でのEHSセミナーは2001年から開催しており、今回で4回目になります。今回は事前にお客様へセミナー内容についてのアンケートをお願いしました。その結果、当社グループのEHSに対する考え方と実際の活動内容、製品で使用する規制化学物質の削減、各装置での取り組みに関する内容を中心としたセミナーを実施しました。



セミナーでの配布冊子



台湾でのEHSセミナーの風景

前回と比較して参加人数が増加し、特に装置に直接かかわる方々の参加が目立ちました。実際に装置を使用する立場からの視点が加わり、活発な質疑応答と意見交換が行われました。なかでも装置の安全性に対しては特に高い関心が寄せられました。



アンケートの結果

参加したお客様からは、「分かりやすかった」「東京エレクトロンのEHSに対する取り組みと考え方が良く分かった」「新しい考え方やインスピレーションが得られた」といった高い評価をいただきました。また、「今後もセミナーを継続的に開催し、装置の安全性や環境負荷低減についての事例を紹介してほしい」との声を多くいただきました。

ステークホルダーとのコミュニケーション

■ 社会貢献に対する考え方

東京エレクトロングループは、「社会に対し、常に規律を守り、協力的でありたい」「社会の健全な発展のために協働することが我々の義務である」という考えに基づき、行政や地域社会との信頼関係を築きながら、国内はもちろん、海外においても様々な社会貢献活動を展開しています。今後も活動をさらに拡充し、社会とともに歩んでいきます。

■ 国内における社会貢献

藤井事業所（山梨県韮崎市）では、「韮崎市アダプトプログラム制度」に参画しています。アダプトプログラムのAdoptとは、英語で「養子縁組をする」という意味です。ごみの散乱やポイ捨てのない美しく快適な町にするため、市民（事業者を含む）が道路や公園といった公共の場所をわが子に見立てて掃除や美化活動を行い、その活動を自治体がサポートする制度です。同プログラムでは、年6回以上の活動が求められます。



清掃風景

藤井事業所では、韮崎市中央公園の清掃活動に参加しています。本活動を通じて韮崎市行政との連携が今まで以上に深

まるとともに、地域への貢献にもつなげることができました。なお、第1回目（2005年6月6日実施）の本活動は、韮崎市広報8月号に掲載されたことに加え、活動PR用サインボードを韮崎市中央公園内の遊具広場に設置していただきました。



設置されたポスター

■ 海外における社会貢献

東京エレクトロン上海では、社員一人ひとりが社会に「感謝の意」を表する意識を高揚するために、社会貢献として孤児院への寄付を行っています。新年会にビンゴゲームを開催し、参加する社員とその家族は1枚10円でビンゴカードを買います。ビンゴカード代はすべて寄付金となります。2006年1月の新年会では3,630元（約55,000円）集まり、全額が孤児院へ寄付されました。



ビンゴゲームの様相



寄付証書と東京エレクトロン上海社長 Jay Chen

TOPICS

東京エレクトロン九州にて涵養植樹を実施

東京エレクトロン九州では、創設20周年を記念し阿蘇の俵山で水源涵養林の植樹を実施しました。

水源涵養林は、保水や水質浄化などの重要な役割を果たし、「緑のダム」とも呼ばれます。植林の場所となる阿蘇山周辺は、九州中・北部5県の主要6河川の源流にあたり、300万人以上の人々がその恩恵を受けています。しかし、近年都市化による保水量の減少や、流域での農地（水田）の影響などで湧水量が年々減少しています。今回の植樹の目的は、限りある貴重な水資源を守るために減少した保水量を増やすことです。今年は



植林風景



集合写真

0.3ヘクタールの土地にヤマザクラ・ヤマモミジ・クヌギなどの広葉樹を1,000本植樹しました。この植樹活動は、5年計画（植樹を3年、手入れを2年）で実施されます。今回は227名の社員、家族が参加しました。参加者からは、「家族で楽しく植樹ができた」、「環境のことを考える良いきっかけとなった」などの感想が多数ありました。



東京エレクトロン九州 資材部
長谷部 博司

長男（4歳）と2人で参加し、張り切って26本を植えてきました。子どもはカブト虫やクワガタを早く見に行きたいと楽しみにしています。



東京エレクトロン九州 クリーントラック品質保証部
稲田 美穂子

今までは義父母も俵山にはあまり親しみがなかったのですが、今回の植樹で「これからは俵山を通るたびに気になるね」と言っております。

ステークホルダーからのご意見

2005年度環境・社会報告書および東京エレクトロングループの事業内容について、遠峰徹様にご意見をいただきました。



セイコーエプソン株式会社
半導体事業部
IC・CS品質保証部(環境担当)
エナジーセービング専任課長

遠峰 徹 氏

(1) 東京エレクトロン環境・社会報告書の感想

全体が冗長になることなく簡潔にまとまっており、活動の具体性と行動力を感じられること、また技術的な内容がわからない顧客に対してもイメージを持てる内容になっている事に好感が持てました。特に装置の省エネルギーに対して高い意識が感じられ、ユーザーからの要望に現場も一体となって取り組む姿勢を強く感じる事ができ、安全と健康に対する配慮を含め、なすべきことの明確さが伝わってくる内容になっていました。また、トップの方が具体的な内容にも踏み込んでご意見を述べられており、会社としての取り組みの集中力を感じた次第です。

(2) 東京エレクトロンEHS活動に関する感想

顧客への姿勢や環境に加え、従業員の方々の安全と健康に対する意識の強さが特徴的と感じました。顧客の安全を大切にすることは自らの安全を大切にすることから始まるといった意識が背景から読み取れ、信頼感を深める事ができました。

半導体工場の環境影響を考える時、半導体工程ほど多種の技術が集積されている工程はほかにないことに思い至ります。一台一台の製造装置がファシリティとの関係において多くのINPUTとOUTPUTで結ばれています。多くの種類の装置を手がけるなかで、問題を直視し設計段階から取り組むうとされる姿勢に心強さを感じています。

(3) セイコーエプソンから見た東京エレクトロンの印象

プロセス技術を含めた新たな装置開発を推進され、常に新たなご提案をいただいている事に日頃感謝しています。一方、新しい装置のみならず既に工場で稼働している装置に対しても、技術開発の成果を展開し改善の提案をいただけるものと期待しています。また、環境・社会報告書に業界標準を重視している姿勢にも現れていますが、SEMIをはじめ半導体業界活動にも大変積極的であることに業界をリードする存在である事を感じています。

(4) 東京エレクトロンへの要望・期待など

環境・エネルギー面で省エネルギーについて大変敏感な状況を迎えつつあると感じています。従来の省エネルギーについて、各方面で個別の成果は出てきていますが、目的を半導体工場の省エネルギーの実現に置いたとき、今までの活動成果をインテグレートしてゆく視点が重要と考えています。一方、環境活動の成果は個別企業の活動で一人勝ちできるものではないのも実情です。したがって、半導体業界全体の方向付けとして、環境施策のコスト効率をあげていく事が重要と考えています。個別の環境関連技術開発およびその普及と同時に、業界を方向付けていく事にも今まで以上のリーダーシップ発揮をお願いしたいと思います。

■ Tokyo Electron U.S. Holdings, Inc.の 社会貢献

「産業リーダーシップ賞」を受賞

TEL USHDは、2005年オースチン美化協会(Keep Austin Beautiful: KAB)より「産業リーダーシップ賞(Industry Leadership Award)」を受賞しました。この賞は、環境美化、汚染低減、および排出削減の分野でKABの活動に大きく貢献した市民団体または提携組織に与えられるものです。TEL USHDでの植樹運動、自然保護活動、美化活動や代替エネルギーの積極的使用などの活動が評価されたものです。



「産業リーダーシップ賞」受賞風景

「日本と自然」展示会を支援

TEL USHDでは、昨年オースチン子供博物館の展示会「日本と自然 - 四季の心(Japan and Nature - Spirits of the Seasons)」のスポンサーを務めました。この展示会は、子どもたちが特色ある日本の4地域、福岡・琵琶湖・京都・札幌を探訪し、一カ所で一つの季節を体験できる



「京都」の展示風景

もので、参加者とのコミュニケーションを通じて、日本のユニークな地理的特徴や景観を紹介しました。この展示会の入場者数は20万人を超えました。

オースチン市長Will Wynn氏からのメッセージ

TEL USHDはオースチン市にとって手本とするべき企業市民です。TEL USHDは、この数年間地域の公共福祉に関するプログラムとリサイクル活動へ積極的に参加され、KABより表彰されました。TEL USHDの献身的な支援とリーダーシップによって、私たちの地域における生活の質は確実に向上しています。

2006年5月



オースチン市長
ウィル・ウイン
(Will Wynn) 氏